

医療人能力開発センター & 医学教育センター

Wind News letter No.38

No.1-37は「GUNMAS」およびHPIに掲載しています

医療人能力開発センターホームページ

<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

こちらから入って各部門をクリックしてご覧ください。



2014.7.17 No.38

医療人能力開発センター

臨床研修センター/スキルラボ部門
女性医師等教育・支援部門
看護職キャリア開発センター(仮)
地域医療支援センター(群馬県)

内線 7736 E-mail: c-center@ml.gunma-u.ac.jp

医学教育センター

内線 8017

E-mail: ome.gunma.univ@gmail.com

平成27年度群馬大学医学部附属病院 臨床研修プログラムについて

今年もいよいよ、医学科6年生の皆さんの「採用試験&マッチングの夏」がやってきました！

6年生の皆さんは、臨床研修にどの病院を選ぶのか、そして将来どんな医師を目指すのか、期待に胸をふくらませつつも、ちょっぴり不安でもある今日この頃かと思えます。

今回のニュースレターでは、そんな6年生の皆さんと病院教職員の皆様に、来年の群大病院臨床研修についての最新的话题をご紹介します。

TOPICS 1 「群大病院(群馬県)の臨床研修、定員大幅 UP！」

群馬県全体で +34名、 うち群大病院は +16名(合計60名) です！

医師臨床研修では都道府県ごとの臨床研修医の定員枠が定められていて、各県の研修医採用実績や医学生の数などから算出されます。今年度、その見直しがあり、群馬県全体の定員枠が34名増員され155名となりました。

県内随一の指導医数を誇り、その研修/診療体制が高く評価されている本院では、この34名のうちの16名の定員をいただくことができました。これも、指導医はじめ教職員の皆様の臨床研修への御理解・御尽力により、大学医学部附属病院ならではの質の高い臨床研修を日々提供していることが広く認めいただけているためと存じます。改めまして、皆様大変ありがとうございます！

■平成27年度初期臨床研修プログラム募集定員

- (1)群馬大学初期臨床研修プログラム 49名
- (2)群馬大学初期臨床研修周産期エキスパート養成プログラム 4名
- (3)群馬大学初期臨床研修地域医療重点プログラム 5名
- (4)群馬大学初期臨床研修救急重点
(前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科6ヶ月)プログラム 2名

昨年12月に本院が受講した(公益)日本医療評価機構の病院機能評価でも、「臨床研修病院として多くの研修医を擁し、活気のある臨床研修が行われている。プログラムの整備状況、研修医評価、研修指導医の評価ともに、適切に実施されている。」との講評をいただきましたが、今回の定員増を、さらに充実した研修環境を提供していく絶好の機会と考えています。

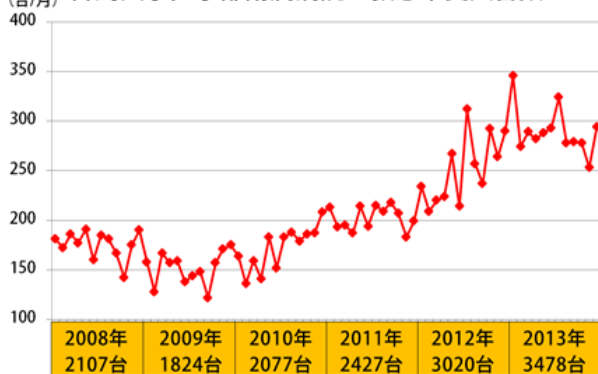
大勢の6年生の皆さんのご応募を、お待ちしております！！

TOPICS 2 「1年目の必修・救急研修(3ヶ月) 全面受け入れ開始！」

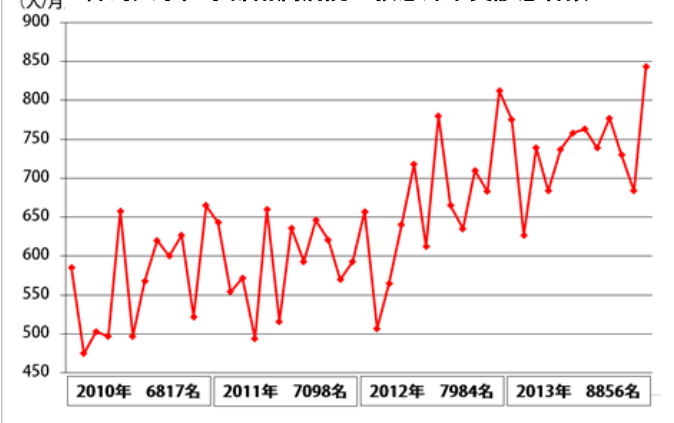
本院救命総合医療センターでは症例数が年毎に増加し、最新の病院機能評価でも、「救命救急センターは標榜していないものの、一次救急から三次救急まで幅広く対応し、地域の救急医療の要となっている。各診療科との連携も密になされており、緊急手術・アンギオ・内視鏡等に対しても迅速な対応がなされている。」と高く評価されるなど、救急領域の研修環境が益々充実してきています。厚生労働省からも、本院救急部にて救急領域の臨床研修を行う十分な診療・指導体制が整っていることのご指摘をいただきました。これを受け、平成27年度プログラムからは、1年目の救急研修(必修)について、3ヶ月間全面的に救急部で受け入れていただくこととなりました！ グレードアップする救急研修に、ぜひご期待ください！！

なお、これまで当院プログラムで選択可能であった1年目の救急部での研修期間中に1.5ヶ月を麻酔蘇生科での研修に充てる研修方法については、研修医からの評価も高く、またその内容も非常に充実しているため、当院においては特例として従来通りに実施することも可能*です。（*ただしこの場合には2年目に1.5ヶ月間の救急研修を行っていただく必要があります。）

群馬大学医学部附属病院の救急車受入台数



群馬大学医学部附属病院の救急外来受診患者数



救急部受診者の推移、診療の様子：DMAT

TOPICS 3 新設：地域医療重点プログラムとは？

本院研修プログラムの定員増と、群馬県地域医療支援センターの開設に合わせて、今年度新設した新しいプログラムです。1年目に3ヶ月間の協力病院での研修を組み込むことにより、初期臨床研修中の2年間に多くの異なる病院での研修を選択することが可能になりました。将来の地域の医療のリーダーとして、地域で求められる医療を実践する幅広い視野を身につけることを目標としています。今年度の定員は5名です。

■基本設計

	内科 (6)	救急 (3)	地域医療 基礎 (3)
地域	地域医療 A (5~6)	地域医療 B (5~6)	
1	地域医療 C (11~12)		

◇ 協力病院での研修

■地域医療基礎

1年目の3ヶ月、群馬大学医学部附属病院の協力病院で、選択必修科目の中から2つ以上の診療科を選択して研修します。

■地域医療A ・ 地域医療 B

2年目に、協力病院での研修を5~6ヶ月間×2ターム行います。

■地域医療C

地域医療A・Bと同様の内容を、1つの協力病院で連続して1年間行います。

定員増・新たなプログラムも加わり、さらに充実する本院の臨床研修に、一人でも多くの方がご参加くださることを期待しています。指導医はじめ病院教職員の皆さまの厚い（熱い）ご支援を、引き続きよろしくお願いたします。（菊地麻美）

■ 上級者向け「SPSS実習セミナー」

6月28日（土）に、上級者向けの「SPSS実習セミナー」を開催しました。日本IBM社の出張トレーニングを利用した実習形式のセミナーで、日本IBM社より長谷川 博康先生を講師としてお迎えしました。参加者は、募集人数いっぱいの12名の参加がありました。そのうち4名は学外からの参加でした。

内容は、ロジスティック回帰分析の復習と、Kaplan-Meier法およびCox回帰で、SPSSを用いてデモデータを実際に解析していく、という実習形式のセミナーでした。終了後のアンケートでは満足度が高く、「定期的に開催してほしい」「また参加したい」との意見がみられました。「基本的な操作に関するセミナー」への要望もきかれますので、今後とも、可能な範囲でニーズ別のセミナーの開催を考えていきます。

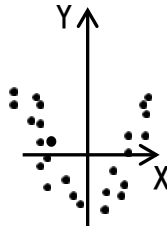
■ 『医療統計学‘再’入門セミナー』 今年度も開催します！！

今年度も医療統計学の再入門セミナーを開催します。9月20日（土）・27日（土）、10月25日（土）・11月1日（土）に開催予定です。土曜日2日間の集中講義で、同内容の講義をそれぞれ2回ずつ行います。こういった組み合わせでご参加いただいてもかまいません。1日のみのご参加も可能です。昨年、1日しか参加できなかったという方もぜひご参加ください。

開催日：第1回 9月20日（土）・9月27日（土） 1日目 14：30～17：30 2日目 14：30～17：30
 第2回 10月25日（土）・11月1日（土）
 ・データのまとめ方 ・相関と回帰
 ・統計学における推測とは ・分散分析
 ・2群間の比較 ・多変量解析案内
 （時間が許せば）

あなたは正しく説明できますか？

- ① 「有意水準0.05」とはどういう意味ですか？
- ② 右図のXとYには、相関がありますか？



『医療統計学‘再入門’セミナー』へ！！

お申込みの際は、参加希望日を明記してください（締切8月31日（日））

統計セミナーに関するお問い合わせ
 ・お申込み
 医学教育センター：井手野
cme.gunma.univ@gmail.com

完成！ 東棟2階渡り廊下！！

（財）同愛会様のご寄付により竣工された共用施設棟から東棟2階への渡り廊下がいよいよ完成し、7月2日（水）に学長・病院長による「渡り初め」が行われました。これにより、階段を使わずに第1スキルラボセンターやICU家族控室等にアクセスできるようになりました！

明るい都会的なデザインで、眺めも素晴らしい新・渡り廊下を、皆さまどうかご活用ください。



第4回 研修医症例発表会

今年も開催、奮ってご参加ください。

日時 2014年9月26日(金) 15時30分～

場所 医学部大会議室 (臨床研究棟1階)

最優秀賞の方はぐんまレジデントグランプリにて群馬大学代表として発表していただきます。

研修医・研修歯科医と教職員・指導医との意見交換会

日時 2014年9月26日(金) 20時～

場所 石井ホール (プロジェクト棟1階)

初期臨床研修医 (医科10・11期生及び歯科8・9期生) を対象とした研修医と指導医との意見交換会です。ご参加お待ちしております。

演題募集締切

・8月22日(金)

・抄録 400 字

締切厳守です。

今から準備しましょう!

終了後、意見交換会があります

第4回 女子医学生のためのWind Joy Net Plus Meeting

9月9日(火) 18時～

石井ホールにて開催予定

昨年、女子医学生22名、医師35名が集い大好評だった会を今年も開催します。ミニレクチャーと懇談会、軽食があります。毎年、医学科5年生女子のたくさんの参加申し込みがあります。診療科のアピールも兼ねて多くの医師の方にご参加いただけますよう、よろしくお祈りします。後日、参加のご案内をいたします。



昨年の様子

1. 挨拶
2. ミニレクチャー
大嶋 愛沙香 先生 (整形外科)
山口 彩 先生 (呼吸器・アレルギー内科(2))
野田 聡実 先生 (眼科)
3. 情報交換会 (軽食あり)

ぜひご参加ください

昨年のアンケートより (学生さんの声)

- ・将来の具体的なイメージがわいて、とてもためになりました。とりあえず頑張ろうと思いました。
- ・実際に子育てをしながら働いている先生方のお話を聞いて、とても勇気をいただきました。
- ・実際の声を聞いて、現実感をもって参加することができました。とても話を聞きやすい環境でよかったです。

編集後記 (2014. 7. 17)

最近、偶然知り合った人に思いがけない気づきをいただいたり、不思議な縁としか言えない出会いがあったりということが続いていて、セレンディピティという言葉思い出しました。「洞察力」「偶然をとらえて幸福に変える力」などと訳され、科学の世界では思いがけない発見が素晴らしい発明をもたらすという意味でも使われています。誰でもまわりに幸運な偶然やチャンスは溢れているが、それに気づくかどうかは鍛えることができる能力であると、かの有名な脳科学者、茂木健一郎氏が言っています。一つのことに取り組んでいると、否応なしに周囲の出来事への感度があがり、チャンスを受信しやすい状態になる、そんな人は次々にチャンスをもたせて、ツイている幸運な人と思われ、気づけない人は不運を嘆いてばかりいる、そんな違いだけなのでしょう。

先日、男女共同参画推進室の催しで「私のキャリア・元気がでる (かもしれない) 話」をさせていただき、これまでのセレンディピティを振り返ることができました。偶然のチャンスに気づく能力を鍛えるには、行動し続けること、なのだそうです。ややスピードが鈍ってきたかと心配なこの頃なのですが、これまでの経験を活かし周囲の方の力を借りて、新しいことにも取り組みたいと思います。

秋から医療人能力開発センターの様々なイベントがありますのでぜひご参加ください。 次回は9月発行です。(YN)